

観光まちづくりワークショップ 記録

平成27年3月

観光まちづくりワークショップ

1. 実施概要

1-1. タイトル

すぎなみ津々浦々～住宅都市杉並ならではの観光スタイルをいっしょに考える～

1-2. 開催日時

平成27年1月31日(土) 14時～17時

1-3. 開催場所

細田工務店リボン館(阿佐谷南3-35-21)

1-4. 参加者

公募による一般区民など(60名)

1-5. 参加告知方法

広報すぎなみ、区HP、オリジナルチラシ(500部) ※チラシは図書館等の区関連施設へ送付し周知

1-6. 主な内容

●ゲストスピーカーによるミニ講演

NHKの人気番組でまち歩きブームの火付け役となった「ブラタモリ」のプロデューサーを務めた尾関憲一氏を招き、「番組制作現場から見る“まちの歩き方”“気づき方”」と題し、実際の番組も上映しながら制作体験に基づく講話をいただいた。

●ワールドカフェ

下記の3つのテーマを設け、6つのテーブルにわかれてワールドカフェを行った。

A.観光体験ストーリー「忘れられない旅の思い出について」


B.杉並の地域資源「私のまちのプチ自慢」

C.杉並の観光スタイル「まち歩きが楽しくなるあなたのご提案」

観光まちづくりワークショップ

2. 告知資料

●オリジナルチラシ



すぎなみ津々浦々

住宅都市杉並ならではの
観光スタイルをいっしょに考える
観光まちづくりワークショップ

参加費
無料

西荻窪・300Mバス通りが巨大キャンパスらくがき大会

2015年1月31日(土)14:00-17:00 受付・開場 13:45

Part 1
オープニング: 尾関憲一 さん ミニ講演
「番組制作現場から見る“まちの歩き方”“気づき方”」

Part 2
ワールドカフェ「みんなのアイデアで地域の魅力を再発見」
ワールドカフェは、カフェのようにリラックスした雰囲気の中で少人数で対話するディスカッションスタイルです。
時間ごとにメンバーやテーマが変わり、
色々な方との対話を効率的に楽しめます。

Part 3
講評
尾関さんと一緒にワールドカフェのふりかえりを行います。

ゲストスピーカー 尾関憲一さん

NHKエンタープライズ制作本部
情報文化番組エグゼクティブ・プロデューサー
昭和 63 年早稲田大学教育学部国語国文学科
卒業、同年NHK入局。青森放送局、番組制
作局ファミリー番組部、広島放送局、衛星放
送局、制作局エンターテインメント番組部な
どを経て現職。

■これまでの主な担当番組・著作
まち歩きブームの火付け役となった「プラタモリ」(平成20年~24年)の
ほか、「東京カワイイ☆TV」「天才てれびくん」「BSマンガ夜話」「迷宮
美術館」「熱中時間~忙中趣味あり~」「スタジオパークからこんにちは」
などを担当。著作に『時代をつかむ! プラプラ仕事術』(フォレスト出版)
がある。

会場 細田工務店 2階会議室 (杉並区阿佐谷南3丁目35番21号)
JR 阿佐ヶ谷駅徒歩4分 中杉通り沿い※右図参照

定員 40名程度 (申込順)

対象 区内在住・在勤・在学の方ほか

申込 電話またはファックス、E-mailで、名前・住所・連絡先を明記し、
1月23日(金)までにまちづくり推進課拠点整備係
☎3312-2111(代表) (内線3383)
FAX: 3312-2907
E-mail: matidukuri-k@city.suginami.lg.jpへ。

主催 杉並区まちづくり推進課

会場案内図



QRコード
メールアドレス用

観光まちづくりワークショップ 要録

A.観光体験ストーリー「忘れられない旅の思い出について」

●観光地でない場所・ガイドブックに載っていない場所の面白さ

- ・街を歩くと、あまり決めないで通ったことのない道を歩いて新しい発見があったら、とても楽しいと思う。
- ・中野から神田川沿いを歩いたら、江戸時代の街の設計や成り立ちに気付いた。発見や気づきのある旅は心に残る。
- ・伊豆高原で、あえてガイドブックにないところを歩いた。天気も良く、気ままに歩いていたら、小さい漁港に出た。それだけのことが、すごく感動した。自分で発見した、見つけたものだからそれだけでいい旅だったと思った。
- ・学生時代のバイク旅。行く方向だけ決めて、たどり着いた場所で泊まる。食べるものはコンビニがあればそれでいいというスタイル。変な宿にも泊まったり、学生ならではの楽しい旅だった。
- ・先入観でなく、自分で見たものを感じる。知識があって行くところはきれいで当たり前。でも迷い込んで見たものは記憶に残る。

●「ヒト」との触れ合い・コミュニケーション

- ・鎌倉で道で出会った子どもに「こんにちは」と挨拶されて、驚いたがすごく嬉しかった。
- ・きっかけは何でも、会話の多い旅は印象に残る。
- ・50年前、4カ月間ヒッチハイクでヨーロッパを旅した。ヒッチハイカーが世界中から来ており、情報交換しつつ旅をする。コミュニケーションを取ることはすごく大切なことで、戦争をしないために大切なことだと学んだ。
- ・行き先を決めないで行くと、会話が増え、土地のことを知ろうと貪欲になる。自分としてはそういう旅がとても好き。
- ・熊本の阿蘇の温泉で初めて会った人とおしゃべりをしたのがとても楽しかった。
- ・友達と二人で西日本の旅をしたとき、ぶらぶら歩いていたら、通りかかったご夫婦が「どこへ行くの？連れて行ってあげるよ」と声をかけて下さった。住人ならではのガイドでその場所の日常に入ることができ、楽しい旅になった。
- ・おいしい寿司屋をバスに乗って訪ねたが、「休み」だった。がっかりしてバスを待っていると寿司屋のおじいちゃんが「せっかく来てくれたのにごめんねえ」と麦茶と自家製の茄子の漬け物を持ってきてくれた。私は茄子が大嫌い。でもせっかくの気持ちだからといただいたら、すごくおいしくて、以来茄子が好きになった。
- ・青春18キップで飛騨高山へ。それまでスーパーやコンビニでしか買い物をしたことがなくて、朝市の売り手との対一の買い物は初めてだった。「ありがとう」という言葉がこんなに嬉しいのかと思った。帰ってきてから意識して「ありがとう」と言うようにしている。

●旅先ならではのおいしい食べ物

- ・旅にはおいしい食べ物がつきもので、印象に残る旅はおいしかった食べ物と切り離すことができない。
- ・会社の上司と飲み屋の新規開拓の旅。チェーン店は禁止。青森に行ったときは飲み屋9件ハシゴ。気持ち悪くなり帰りの船に乗れなかった。
- ・旅に行くと市場へ。なかったら、スーパーへ。旅先では食品売り場を見る。
- ・食べ物に一票。食べ物がおいしいと旅の印象が良くなるし、おいしいものが食べられないと台無し。
- ・おいしいだけでなく「きりたんぼ」や「御幣餅」のように、土地の文化や歴史に根ざすものに触れると物の背景を知るきっかけになる。
- ・釣りやキャンプが趣味、どこへ行っても必ず名産を食べる。「旅の記憶は食の記憶」。美味しくても不味くても、食べたものを思い出すとどこか思い出せる。場所と食の記憶は離れがたく刻まれる。

●ハプニングやトラブルこそ旅の醍醐味

- ・トラブルこそ記憶に残る旅。新婚旅行で往復の飛行機だけ決めて行ったスペイン。夜11時半に宿が決まり入ったら、三月なのにシャワーは水。帰りは4時間かけて空港の街まで着いたところで財布を忘れたことに気付き…。南京虫のいる宿に当たって背中が真っ赤になったり、思い出には事欠かない。
- ・学生旅行でニューヨークへ。着ぐるみを来た人に「写真を撮らないか」と誘われて写真を撮ったらお金を請求された。一緒にいた友人と走って逃げた。怖かったけど、自由の女神を見た感動より自由の女神の着ぐるみを着て追いかけてきた人の方が強く残った。
- ・女同士の旅で大げんか。しかも翌朝友達のパンツがなくなる。二度とそのメンバーの旅行はない。
- ・その場の好奇心で、事前の下調べ・準備ゼロで行くので、トラブルやアクシデントが旅の思い出。観光地へは行かない。名前が面白いからと知らない駅で降りたりした。

●その他(旅は気の持ちよう、ほか)

- ・自転車の京都往復一周旅行。自転車は見る景色も違う。人が昔から歩いてきた道を走り、街道や道の成り立ちを肌で知った。やはり、歩くまたは自転車くらいの速さが旅に適しているのではないか。人の生活が旅のスピードで見えた。
- ・学生時代に行った「秋山郷」。テレビは受信不可、ラジオだけが情報源。夜には車で1時間離れた場所を流れる川の音が聞こえる程静かだった。非日常感満載で忘れられない。
- ・子どもと一緒に旅は、子どもを飽きさせず、楽しませておくために考える。また、迷子、緊急トイレもつきもの。
- ・海外旅行では、国によって文化や性格の違いを見られて面白い。リゾート地には世界中から人が集まっており、夜の過ごし方やファッションなど、日本にはない文化・習慣が見られた。

観光まちづくりワークショップ 要録

B.杉並の地域資源「私のまちのプチ自慢」

●3本の川(妙正寺川、善福寺川、神田川)

- ・杉並の自慢は暗渠で、都内でもわかりやすい形で残っている。大きい暗渠が4つある。ツアーを行うと100人ぐらい集まる。
- ・杉並は曲がりくねった川が基本で、それをまっすぐ貫く中央線が特徴。そこから文化が生まれた。

●商店

- ・中央線沿線は個性的な飲み屋が多い。絶滅危惧種の「スナック」が残っている。ワンダーランドである。
- ・中央線沿線の商店街はサブカルもあり、何か色が違う。
- ・ライブハウスの数は中央線沿線が一番多いでは。ロックだけでなくジャズなど多彩。

●文化

- ・文化のまち。文士がいた。文化レベルが非常に高い。だからジャズストリートなどが根付いた。
- ・みんなでお祭りをやる文化がある。
- ・「西荻観光手帳」を作った。文化人、近代建築などマニアックにまとめた。西荻は見どころが多い。自分のまちを知るのが大事。
- ・「屋敷」が減っているが、残す方法はないか。個人の力ではどうにもならない。
- ・昔は文豪、今はアニメ、クリエイターが多いまち。

●人

- ・個人商店は人情に厚い。他所から来た人にも優しい。懐が深い。心地良いまち。人との出会いがある。
- ・商店街が残っている。江戸川の下町と比べても、人と人が関わっており、人が優しい。

●歴史・自然

- ・下高井戸塚山遺跡から30,000年前の局部磨製石斧とナイフ形石器が出土し、武蔵野台地上で最古の石器とみられる。2点とも区の指定文化財になっている。
- ・4月下旬から阿佐谷北6丁目の八重桜とケヤキの緑のコントラストが素晴らしい。
- ・阿佐谷のケヤキ並木がきれい。住民が行政に声をかけてできた歴史も良い。
- ・水や緑のある地域が多い。阿佐谷、荻窪、清水町、堀ノ内など地名に残っている。大きな公園があるのも自慢。
- ・荻窪にあった富士精密工業(前中島飛行機)では日本初のロケットをつくっていた。
- ・大宮八幡は、明治神宮、靖国神社に次いで都内で3番目の広さ。
- ・妙法寺など江戸時代から焼けていない建物が多い。古いものが残っているとまち並みが穏やかになる。
- ・国の重要文化財(建造物)が妙法寺に1件、登録有形文化財(建造物)が東京女子大学を含めて16件ある。妙法寺や東京女子大周辺など、まち歩きになる。

●地域ごとに異なる特徴

- ・中央線の4つのまち(駅)は、昔は「住んでいる軍人などの階級」がそれぞれ違っていた。それがまちの特徴になったと考えられる。杉並の自慢は、地域による個性の違いにあるが、その要因の一つはこれである。
- ・杉並の発展は戦前から。軍人や文人、会社の重役が中央線沿線に住んでいた。女性も安心して住みやすい。
- ・駅ごとに各々の「顔」がある。
- ・中央線、井の頭線、西武線の沿線ごとの雰囲気の違いが共存しているのが面白い。
- ・阿波おどりなどの祭り、ラーメンなどの食など、まちごとの個性がはっきりしている。

●その他

- ・阿佐谷に住んでいる芸能人を情報発信のきっかけ(まちのPR)にする方法もある。
- ・杉並公会堂の音響の良さは日本一では。日本フィルハーモニー交響楽団は世界一恵まれた楽団だと言われている。
- ・銭湯が近くに多数あり「銭湯巡り」ができる。(漫画家のさくらももこが銭湯巡りをした。「なごみの湯」で絵を描いた。都内でも銭湯が多い。銭湯検定があるようだ。)
- ・お笑い芸人なども多く住む。
- ・歴史的な価値のある老人ホームがある。(浴風園:1925年に設立)
- ・学生など地方から上京しやすい場所。

観光まちづくりワークショップ 要録

C.杉並の観光スタイル「まち歩きが楽しくなるあなたのご提案」

●杉並の特徴・魅力

- ・歴史や産業にも特徴はあると思う。例えば中島飛行機やプロ野球の球団があったことなど。
- ・杉並は文化の街。3本の川から歴史が始まり、文化が始まっていると思う。
- ・小川未明の家や太宰治が下宿していた家など、知らなかった。知っていれば訪れたかった。
- ・杉並は緑が多いと言われるが、大きな公園が沢山あるわけではない。一般家庭の緑化が杉並を緑の街に感じさせている。
- ・文化のレベルが高いと思う。
- ・公園が少ないという意見もあるが、多いと思う。平日散歩をしている人が少ないので、もったいない。
- ・防災を重視している区というイメージ。

●杉並散歩の楽しみ

- ・目的地向かう道を、敢えて一本はずして別の道を通ってみると、新たな発見や出会い、冒険になる。迷子になると、人に尋ねる。そういう人とのコミュニケーションを何かに活用できないか。
- ・面白いもの、意外なものに出会うことができる。例えば野菜の直売所など。
- ・杉並の商店街には昔ながらの町並みが残っている。お店の人のプロフィールを知りたくなる。例えば「この店主はシャイだけど〇〇」のようなこと。魅力をうまくPRできればいいのではないか。
- ・道路、家の形、デザイン、区画整理してある、していないなど、比較するのが楽しい。
- ・ボーイスカウトでやっていることだが、追跡ハイクやナイトハイクなども楽しい。
- ・西荻は駅から離れたところにいいお店がある。吉祥寺や新宿にも出店したいと思っているような意欲のある人が出店している。
- ・上井草スポーツセンターからスカイツリーが見える。

●散歩が楽しくなる方法(提案)

<テーマを持たせる>

- ・杉並は防災に力を入れているので、防災について知りながら街を歩くようなことはどうか。
- ・アニメを使った何かができれば楽しいのではないか。例えば聖地巡礼ツアーなど。アニメ会社が複数あるので、協力してもらって繋げればいい。
- ・工場の夜景見学などはどうか。他所でやっているが、写真を撮る人やデートで来る人、孫とおじいちゃんでおじいちゃんが勤めていた工場を見るなど、色々楽しみがある。
- ・杉並では、3本の川の勉強をするようだ。川を散歩する楽しさを伝えてはどうか。
- ・七福神めぐりをしてはどうか。
- ・地方の人から見ると、東京のイメージは新宿や銀座となってしまう。寺や自然、野鳥などをアピールしてはどうか。

<ツールを用いる>

- ・ビーコンを使って店舗情報などを提供できる。そういったツールを使ってはどうか。
- ・街歩き用のアプリを開発して、地図や解説を載せてはどうか。
- ・カメラを持ってまち歩き撮影をすると、見える印象が違う。まち歩きで記録した写真を活用して何かできないか。
- ・アプリは携帯やスマホがない人には使えない。まちのところどころに、石碑のようなプレートで解説を試みてはどうか。
- ・マップなどがあるけれど、駅に設置されていない。目立たないし周知が足りない。
- ・マップが必要だと思う。日本中の人々が、杉並に来る前に、杉並のグルメやエンタメ、寺などを、サイトを作って区が発信したらいい。
- ・自分たちでマイマップを作るための白地図があったらいいのではないか。
- ・公園や寺などに、番号をつけて、それらを巡るスタンプラリーのようなものをやってみてはどうか。
- ・外国人、高齢者、子供、ニッチなものなどターゲットを絞る。対象者によりPRポイントが異なる。
- ・歩くだけでなく、何かしらの形に残るといいと思う。歩いた後に絵本を作る、写真をシェアするなど。

<ガイドをつける>

- ・単なる旅行ではなく、今まで気づけなかった物がうける時代。地域の人々が作った観光コースは増えている。
- ・地域の人々が案内してくれるのが楽しいと思う。古民家や珍しいものなど、案内してもらいたい。
- ・杉並にも観光協会が必要だと思う。
- ・区外から来る人や、外国人、違う路線から来る人を案内できる案内人がいると良い。

<ほかの移動手段と併せて考える>

- ・自転車があると行動範囲が広がるので、自転車で何かを考えては。
- ・電車だけでなく、バスもPRしたら良いと思う。すぎ丸、関東バス、西武バスが協力して、見どころをめぐる「めぐりんバス」のようなものを作ってはどうか。バス停から行くことのできる見どころなどを説明して、一日中乗り降りを自由にすると良いと思う。

観光まちづくりワークショップ記録

平成27年3月

発行：杉並区

編集・協力 NPO法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー